

藝文いちかわ

市川市芸術文化団体協議会は、市内における各種芸術文化団体相互の協力と理解を深めるとともに、市川市の芸術文化の振興に寄与することを目的とする。



ご挨拶

市川市芸術文化団体協議会名譽会長

市川市長 大久保 博

このたびは、「藝文いちかわ」が発行されますことを心からお慶び申し上げます。

市川市芸術文化団体協議会の白倉会長をはじめ会員の皆様におかれましては、昭和49年の結成以来、長きにわたり本市の芸術文化の振興にご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

貴協議会は、各種芸術文化団体の相互協力と理解を深めるとともに、身近に芸術や文化に親しむことで、市民が心にゆとりや豊かさを得ることのできるよう、様々な自主的創作活動に取り組まれるなど、本市における文化団体の中心的な役割を担っていただいております。

今年度のバス研修では、聖徳記

念絵画館において、一流画家による政治、文化、風俗の貴重な歴史的資料でもある至極の絵画作品を鑑賞されたとお聞きしておりますが、芸術に対する見聞がさらに広まるとともに、浜離宮恩賜庭園の散策では、会員相互の親睦がこれまで以上に深まったのではないかと思います。

来年2月11日の建国記念の日には、貴協議会主催の芸術文化集会在市川市文化会館で開催されます。多彩な出演者をお招きしての講演は、市民の皆様の芸術文化活動の一助になることと期待しております。

貴協議会の皆様には、今後とも本市の芸術文化の普及と発展にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、市川市芸術文化団体協議会の益々のご発展を祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。



記念公演を終えて

市川市芸術文化団体協議会 会長

市川市バレエ連盟 代表

白倉 道代

市川市バレエ連盟を結成して丸一年が過ぎ、十二月には市川市をはじめ多くの皆様のご支援とご指導のおかげで、無事に第一回の記念公演を終えることができました。本当に感謝でございます。

この公演に参加した出演者の大半は一番多感で、心身共に成長期にある若者たちでした。この若者たちが夢中でリハーサルに取り組んでいる姿をみて、私にもああいう時期があったなあ・・・。若いという事は何て素晴らしいのだろうとしみじみと感じました。この公演によって、この若者たちが夢や希望を感じてくれて、人生の指針になれたとしたら、この公演は大成成功だったと思います。

二十五年度は講習会を開いたり、皆でハイキングに行ったりして、次の年への充電期間にしたいと考えております。どうぞ皆様、今後ともよろしくご支援・ご指導賜りますようお願いいたします。

芸文協と共にある合唱活動

市川市合唱連盟 酒井 玄枝

始めて「第九」を歌ったのは、S・60年の文化会館のこけら落としの演奏会であった。多くの合唱団員の1人として練習を重ね、オーケストラ（市川交響楽団）と大ホールでの演奏、歌い終えたときの感動と達成感忘れられない体験となり連盟活動の出発点となった。

S・55年に18団体で始まった市民合唱祭は、第34回を迎え53団体が出演して2日間に渡り盛大に開催された。多くの市民の皆様が合唱の楽しさ、ハーモニーの美しさを聞いて頂き、又特別参加の市内小中学校合唱部の演奏も好評となつている。合唱団も高齢化の傾向にあるが、最近ではシニア合唱団の元気な活動がほほえましい。

市川市は千葉県下でも合唱団が多く合唱活動が盛んな市でもある。市民合唱祭は多くの市民が参加する大切な事業となった。そして又、市川交響楽団協会と共に始めたのが「市川・第九」の活動である。市川市（行政）と合唱連盟、交響楽団協会の三者による市民参加の音楽イベントとしてスタートし「はるのうたごえ」へと発展している。現在は、市川市文化会館主催事業となり合唱連盟・交響楽団協会との共催により、市民

オーケストラと市民合唱による市川方式を大切に、最近では第九以外の曲にも挑戦している。多くのお客様と共に感動を共有し新たな合唱人口の掘り起こしにもなっている。年齢も地域も違う人々が合唱を通して交流、新たな合唱仲間としての活動も展開されている。

昨年3・11の大震災以来、多くの人が「うたごえ」で癒され、元気になつている。うたごえを信じ合唱の出来る事に感謝し、市民合唱祭と共に「はるのうたごえ」の更なる展開を期待している。

現在大きな転換期に遭遇している私たち芸文協ではあるが、先輩の軌跡を大事に次世代につながる若者にも積極的に働きかけ、地域にねずいた事業の企画など更なる芸文協活動の展開を願っている。



オーケストラと歌おう春のうたごえ 2012 2012.4.15

550年の秋

市川市花道協会 木村 美峰

今年はいけばなが生まれ550年になる。例年より遅い紅葉に誘われて京都に着いた。いけばな発祥の地、六角堂を中心として、日本の伝統文化を未来に伝える「いけばな未来プロジェクト」を開催また各地域の花展会場での発表がありました。花王以来の花伝書（室町時代）は現存する最古の花伝書である。環境の花・行事・心象・自然・口伝在之、とある。環境の花としては「柱花（はしらかざりはな）」床柱とは異なる柱に飾る花のことで、このまま現代にも通用できる掛花といえそうです。「くし筒」のくしは籤（くじ）の意味。籤を入れる筒を花器にしたものが筒・花である。「つり花」は舟の花で、船の方に草木を分けてなびかせるとし、下より見えるように生けるとしている。「つくえ花」は字義通り、机の上に飾る花のこと。「書院の花」などと同じ形式なしにした様である。

「行事の花」には「わたまし花」とは「移徒」と書き、新築、転宅を祝う花としている。「心象」とは人待花で、恋花、忍花、人慕う花、心浮かれ花、心乱など、いかにも恋の心にふさわしい名称が付けられた。

「たのめつつこぬ夜 つもりをうらみても待つより外のなぐさみぞなき」という古歌をモチーフとしている。

今、芸文協について思うこと

市川市芸術文化団体協議会

副会長 近藤 明子

東日本大震災以来、度々の地震や荒々しい風水害や原発事故等々、何一つ解明・終息せず、人々の心は不安の中に荒れてきており、人災や犯罪も多くなりました。

この傾向は世界中の各国でも同様であり、人類全体の危機といえます。芸術文化団体の一員である私達は今こそ人々が失いかけてる瑞々しい感性を蘇らせ、暖かい心、愛をもって強く明るく生きられるよう努めましょう。

それには私達の専門分野で培った力を結集して、たゆまず活動を続けていくことに他なりません。



バス研修

市川市手工芸連盟 剣持 光子

平成二十四年九月十九日、四十一名のご参加をいただき有難うございました。

朝のすごい雨にまぎびつくり・・・でも皆様の笑顔にホッとしました。白倉会長の「私は晴れ女だから大丈夫」との言葉に無事出発。先は聖徳記念絵画館へ。あの迫力ある作品に写真ではわからない立派さに感激です。

夢の世界から現実に戻り、昼食の浅草葵丸進へ向かう。道路の渋滞で大分遅れてお店に。暖かい食事をすると思うお店の気持ちにまずまずお腹も温まり、スカイツリーを横目に見ながら、水上バスで浜離宮へ。一時間近い自由散策・・・

広々とした景色に黄色いコスモスが目に鮮やかに残りました。市川市役所の方にもお世話になり、市役所の前で皆様とお別れしてホッとした一時でした。有難うございました。



さらなる飛躍を求めて

市川市洋舞踊協会会長 荒木 洋子

市川市洋舞踊協会は、平成25年3月31日(日)市川市文化会館大ホールにおいて第30回記念「市川市洋舞踊合同公演」を開催いたします。

第1部と第2部は、各加盟団体による作品を第3部では、市川交響楽団協会・理事長 時田 雄氏のご尽力により、Kバレエカンパニーの公演で数多く指揮をされている井田勝大さんを指揮者に迎え、市川交響楽団のフルオーケストラ編成による演奏で合同作品「パリの喜び」(オッフエンバック曲「ロザンター編」)を上演いたします。

このような豪華な作品を上演できませんもの、市川市芸術文化団体協議会の一員として昭和57年から加入し、他団体との交流を図ってきた結果と感謝しております。

洋舞踊協会は、第10回合同公演「百合姫」(平成3年)の成功から、翌4年の千葉県文化集會(市川市文化会館)に、この「百合姫」を土台にした市川オペラ振興会との合同作品、新「百合姫」を発表いたしました。この作品は、高い評価をうけ平成5年愛知県文化集會(愛知県芸術劇場)の招待作品となりました。

その後も、市川市芸文協主催の

舞台芸能公演(平成10年)では「森は奏でてる。踊っている。」と題して市川ジュニアオーケストラ、市川市能楽連合会と共演、市川市主催の「手児奈フェスティバル」(平成13年)、芸文協30周年公演「荷風幻像」(平成16年)に参加、協力をして参りました。また、第27回(平成21年)の洋舞踊合同公演では市川市三曲協会にご協力をいただき、合同作品「夏・秋・冬、そして春」を上演いたしました。これらの足跡は、これまで市川市洋舞踊協会を支えてこられた協会員各位の努力の結晶だと深く感謝しております。

市川市の芸文協にはレベルの高い魅力のある団体が集まっています。今後も他ジャンルの団体との交流をますます深め、質の高い芸術作品を生み出し、幅広く市民の皆様方に楽しんでいただけるような市川市洋舞踊協会に発展していくため、尽力してゆきたいと思っております。



第29回洋舞踊合同公演 2012 2011.12.18

いちきょうは今

市川市交響楽団協会
副理事長 星 乗昭

“いちきょう”の愛称で親しまれている市川交響楽団は昭和26年、千葉県下で唯一のアマチュアオーケストラとして、芸文協が永世会長として戴いている故村上正治氏が創設いたしました。そしてそれより2年早く発足し

た市川混声合唱団・昭和35年市川交響吹奏楽団・昭和50年市響ジュニアオーケストラ・昭和54年行徳混声合唱団・昭和59年市響ジュニアオーケストラ育成会の5団体から市川交響楽団協会が成り立っています。戦後の荒廃を失意の中で、人々の心を癒すクラシック音楽の普及を目指して活動してまいりました。平成23年と24年は一年間で10回の演奏会をそれぞれの年で行ってまいりました。平成25年は8回の演奏会が今のところ決まっております。

これらの演奏会は、創設者の故村上正治氏の「音楽を楽しむ喜びを一人でも多くの人に」の理念により、市響が主催する演奏会を60年以上入場無料として貫き通してまいりました。それらの費用の一部は年間、賛助会員2万円・維持会員5千円として、皆様のご支援をお願いいたしており、プログラムにご芳名を記載させていただいております。

平成24年12月24日(月・祝)には芸文協加盟の市川市バレエ連盟第1回主催公演の「くるみ割り人形」、平成25年3月31日(日)には市川市洋舞踊協会第30回公演「パリの喜び」を市川交響楽団のオーケストラ伴奏で行われます。このことは、同じ芸文協に所属している団体同士が協力しあって市川市文化会館大ホールで公演が行われるということとして、誠に意義深い催しであることとして特筆できると思えます。

これからも市川市民の一層の文化の向上に貢献するべき覚悟で、団員一同活動してまいります。

奄美の歌作り

あずさ企画・代表

本多安仁(筆名 北峰 聖)

もう六年になるでしょうか。

偶然が重なって奄美とのお付き合いが始まりました。奄美の山には昔から「けんむん」が住んでおり、時々山から降りてきて里人と相撲を取るのが好きで、土俵があちこちにあり、またお酒を造るのが上手くて、里人に振舞ったのが端緒で、今では二十五も酒蔵があり、みんな黒糖焼酎です。

「けんむん」さんに引かれて、一年おきに奄美に出かけています。「けんむん」に会った人からの話を集めている生徒が居る龍瀬小学校を訪問したこともあり、焼内湾の波打ち際に設えたステージのお祭りに参加させて貰ったことも、宇検村の老人ホームの慰問に訪れたこともあります。歌い手さんを連れての訪問ですから、奄美の唄も欲しくなります。奄美には「島唄」がありますが、叙情歌みたいな歌謡があつてもと、今までに歌詞で九編、曲のついたもの六曲、CDになったもの五曲生まれています。県人会より結束の強い東京奄美会の総会で、宇宙戦艦ヤマトのスクヤットを歌った川島和子さんに歌わせていただいております。2012年、拙作の「奄

美の風」に曲をつけて下さった宮本あんり先生は日の出幼稚園児、聖徳高の音楽講師の経歴もあり、市川に縁があります。歌つて下さる方は市川在住のサイ・イエングアンさん。大連出身の崔(サイ)さんは1989年、渋谷のオーチャードホールオープンングにて上演された日中合作オペラ「魔笛」に夜の女王役で出演、高い評価を得、コロラトゥーラ・ソプラノ歌手として世界各国で活躍、2009年に市川文化親善大使となられました。「奄美の風」は完成前から名曲の噂が広がっています。発表会は小笠原伯爵邸で2013年4月になりました。



市川市芸術文化団体協議会の、 団体会員・参与会員・個人会 員になっていただけないで しょうか？

「文化都市市川」として調いのある市川の街づくりを目指し、芸術文化の振興の中核として、昭和56年に市川美術会の藤野天光氏、市川交響楽協会の村上正治氏、花道協会の内田一油氏らによって結成されました。協議会は結成後、市内芸術文化の協議機関として市川市文化向上の原動力となっているをはじめ、参加団体の協議機関としての研修、協議、市への建議を通して傘下団体の活発化、市民文化の振興に役立ってまいりました。この活動は手児奈フェスティバル・街回遊展・市川の文化人展などにも積極的に取り組み、文化集会・研修バス・舞台公演・「芸術ガイド」の発行・ホームページ作成・各団体の相互親睦会などの活動をしてまいりました。これからの新たな発展を期するためには、より多くの方々のお力をお借りしなくてはなりません。どうかご入会していただきたく、ご案内申し上げます。

市川市芸術文化団体協議会

(1)〈団体会員〉芸術・文化活動を行っている団体は、法人、同好会、サークル等の名称に関わらず、団体として会員になることが出来ます。

(2)〈参与会員〉団体に所属してはいないが、芸術・文化振興に深い御理解を示して頂ける方は参与会員となつて芸文協のサポートをお願いいたします。また、理事会に出席して、本会に助言していただくことが出来ます。

(3)〈個人会員〉団体に所属していないが、芸術・文化振興に深い理解を示して頂ける個人の方、また、団体会員に所属している方も、個人会員となつて、芸文協のサポートをお願いいたします。

(5)〈ご入会〉ご入会いただける方は、ご氏名・文化活動・ジャンル・ご住所・

電話・Eメール等をご記入下さり、団体会員(年額二万円、参与会員(年額一万円、個人会員(年額三千円)を左記郵便振込み口座に会費をお振り込みいただいた後、ご入会いたします。
ご入会されますと、文化集会のプログラムにご芳名の掲載、協会主催の行事、懇親会のご案内等をさせていただきます。
また、左記にご連絡いただければ、すぐにご入会についてのご説明等をさせていただきます。

(連絡先)事務局 ㊦ 271-0097
松戸市栗山171-2
TEL&FAX047-362-4966
※お振込み先市川市芸術文化
団体協議会 振替口座番号
00140151567235

出会は宝 財産 そして感謝

市川市バレエ連盟 中島利代子

昨年の大震災は大変悲しい経験でしたが、シンポジウムにて大植町の皆さんのお話を聞きし、人は辛い時こそエネルギーを全開して助けあえるものと改めて教えられました。

私ども市川市バレエ連盟は本年市川市芸文協に加えていただきまして、大勢の芸術家の皆様と出会い、刺激され、パワーを頂き、夢中で準備を進め、このたび十二月二十四日にバレエ「くるみ割り人形」を公演する運びとなりました。この舞台はお客様すべてに夢を、また感動して頂ける事と確信しております。ご協力有難うございました。

第19回 市川市芸術文化集会

平成25年2月11日(月・祭)

市川市文化会館大会議室

12:45開場 13:00開会



- 基調講演 「芸術文化で人との交流を通して」
講師 及川扇翠 氏 (日本アートギャラリー)
- 芸文協所属団体による「市川に息づく文化のいろいろ」
茶道・花道・三曲・合唱・オペラ・写真・手工芸・民話

市川市文化集会について

市川民話の会 湯浅 止子

和にこだわり今回の文化集会に臨みます。

恒例のシンポジウムではなく、芸術文化団体協議会の持てる力を発揮して会員によって輪を紡いでいこうという機運が高まりました。今回はお茶に軸を置いて創っていきます。茶道会には実演も入れ、中学生も参加して、お茶の世界へ誘っていただきます。オペラ・合唱の方々には童歌やお茶の唄を奏でていただき、和の世界へ。市川民話の会もお茶に関して、どんな話が語られるのか楽しみです。

花道の方には会場の雰囲気作りに生け花を、そして手工芸や写真連盟の方は日頃の活動の成果を展示して、皆様に見て頂きます。三曲の方々にはBGMとして、演奏を会場に流していただきます。

13団体が輪になって市川における芸術文化の一端を市民の皆様を知っていただけると幸甚です。それぞれの皆様の日頃の研鑽がにじみ出る会にしたいものです。



市川市芸術文化団体協議会参加団体

市川市花道協会	市川市手工芸連盟
市川市交響楽団協会	市川市写真連盟
市川三曲協会	市川市バレエ連盟
市川民話の会	あずさ企画
市川市合唱連盟	日本アートギャラリー
市川市洋舞踊協会	茶道狭霧会
市川オペラ振興会	

編集・発行 市川市芸術文化団体協議会 広報委員会(篠田)

事務局〒272-0097 松戸市栗山171-2 星方

HP <http://www.geibun.net>